



A：200ml/10a処理区

ラウンドアップマックスロードを200ml/10aを6月4日頃処理した区。

B：500ml処理/10a処理区

ラウンドアップマックスロードを500ml/10aを6月4日頃処理した区。

出芽期：6月5日 4葉期：6月26日

前作：乾田直播(初年目)

ノビエとスズメノカタビラが高密度で併発したほ場。無散布区を設けて、試験を実施した。

輪作を実行すると、ノビエ、スズメノカタビラ、エゾノギシギシ、スズメノテッポウなどの畑作雑草が多発する場合があります。越年株が大きかったり、高密度の場合、300～400ml/10aを推奨します。



試験 区分	6月30日 雑草調査		7月5日 生育調査		除草 効果	
	スズメノ カタビラ		ノビエ	草丈		茎数
	越年株 個体数 本/m ²	1年草 被覆 状態			本/m ²	
散布無	4.2	甚	5.0	45	458	×
A	0.0	甚	1.5	54	750	△
B	0.0	少	0.5	65	899	◎

※H24調査。

商品名	成分使用回数	使用時期	10 a 当り使用量
ラウンドアップ マックスロード	耕起栽培は 2回以内 (耕起前は1回以内)	耕起直後～出芽前 (乾田耕起栽培)	薬量200～500ml 希釈水量25～50%

POINT 7 乾田乾籾播種法のラウンドアップマックスロード出芽前処理法の使用上の注意点

出芽してくる芽の観察を怠らないようにし、くれぐれも散布晩限を超えないようにしましょう！

- 適正薬量は200ml/10a、散布薬液量は25ℓ/10aであるが、雑草が高密度に発生している場合や枯死しない雑草が散見される場合は、2回目の散布を行う。このときの薬量は1回目より増やし300～400ml/10a、散布薬液量は25ℓ/10aとする。
- ただし、2回目の散布は、農薬登録上の使用回数や使用時期に抵触しないよう、確認する。
- 事前土壌採取による雑草発生予測法は、乾田直播では特に有効であり、必ず実施する。
- ノビエの発生時期と、処理時期にズレがあるため、すべてのノビエ個体に除草効果は期待できない。ノビエの多発は著しい減収を招くことから、本剤の出芽前処理以降のノビエの選択性茎葉処理剤の散布(2回)の徹底を心がける。
- 耕種的防除法である空知型輪作体系の実践を心がけ、ほ場の雑草密度を低下させる。
- は種後は地中の籾の発芽状況をよく観察する。散布の晩限は地上部出芽直前で、雑草の発生密度を最も低下することが期待できる散布時期である。
- 薬害は枯死であり、散布時期を逃さぬよう作業体系や天候に留意し適期散布する。
- ほ場が乾燥状態の場合は、トラクタ装着のスプレーヤーで散布することが可能である。
- 薬液が乾けば十分な効果を得られるが、朝露や降雨直後の散布は効果が劣るので散布を避ける。
- 本剤の散布に当たっては、グリーンベルトを設置するなど、周辺作物への農薬の飛散に十分注意して実施する。



出芽直前の処理は効果的ですが、ほ場全体を見渡し、草の状況を確認して、散布時期を見極めましょう！
除草剤のコストは他の除草剤に比べ、安価です。

